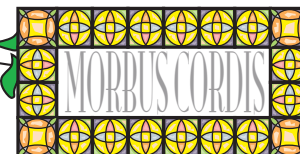




第50回滋賀県立成人病センター研究所セミナー



外傷性脳損傷後遺症の神経基盤

京都大学医学部附属病院 精神科神経科
 助教 上田 敬太 先生

6月29日(月) 午後5時15分～6時15分
 場所：研究所会議室(1F)

外傷性脳損傷は、①直達外力によって生じる局所脳損傷(前頭葉眼窩面・側頭極を含む側頭底面に生じやすい)、②回転による剪断力により生じるびまん性軸索損傷(Diffuse axonal injury: DAI)に大きく分類される。局所脳損傷、特に前頭葉眼窩面から腹内側面の障害では、脱抑制や衝動性が生じやすいとされ、われわれの研究においても情動認知の障害が生じることがわかっている。一方で、びまん性軸索損傷については、後遺症の症候学的特徴や神経基盤についての研究はわずかである。特に社会生活の困難さの原因となる社会行動障害、社会認知の障害については、脳損傷全般において十分な研究はなされていない。

われわれの予備的検討では、びまん性軸索損傷群において、脳梁などの白質だけでなく、前部帯状回、視床、被殻などの中心構造に加え、両側の島皮質・扁桃体にも体積低下が生じ

ていることが明らかになった。また、こういった体積低下部位と神経心理・精神医学的所見との関連性についても検討し、抑うつ傾向と前部帯状回、アパシー傾向と前部帯状回、島皮質との関連を見いだした。また、白質に関する予備的検討では、脳梁の体積減少と処理速度の低下との間に強い関連を見いだした。

びまん性軸索損傷群に認められる脳萎縮の原因としては、近年アミロイドおよびTau蛋白の沈着が注目されている。特に、繰り返しの頭部打撲後に生じる脳萎縮について、スポーツ外傷(アメリカンフットボール、ボクシングなど)が問題となっており、研究報告も増えつつある。繰り返しの無い頭部外傷については研究は少なく、特にびまん性軸索損傷のin vivo研究は、この領域の知見を増やすことに大きく寄与すると予想される。

主催：滋賀県立成人病センター研究所

問い合わせ先：研究所事務室(077-582-6034, 内線8101)

世話人：東 達也(総括研究員) higashi@res.med.shiga-pref.jp

来聴歓迎

